

領域：人間と社会

人間の尊厳と自立

問題1

□□□

Aさん（76歳、女性、要支援1）は、一人暮らしである。週1回介護予防通所リハビリテーションを利用しながら、近所の友人たちとの麻雀を楽しみに生活している。最近、膝に痛みを感じ、変形性膝関節症（knee osteoarthritis）と診断された。同時に友人が入院し、楽しみにしていた麻雀ができなくなった。Aさんは徐々に今後の生活に不安を感じるようになった。ある日、「自宅で暮らし続けたいけど、心配なの…」と介護福祉職に話した。

Aさんに対する介護福祉職の対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 要介護認定の申請を勧める。
- 2 友人のお見舞いを勧める。
- 3 膝の精密検査を勧める。
- 4 別の趣味活動の希望を聞く。
- 5 生活に対する思いを聞く。

問題2

□□□

次の記述のうち、介護を必要とする人の自立についての考え方として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 自立は、他者の支援を受けないことである。
- 2 精神的自立は、生活の目標をもち、自らが主体となって物事を進めていくことである。
- 3 社会的自立は、社会的な役割から離れて自由になることである。
- 4 身体的自立は、介護者の身体的負担を軽減することである。
- 5 経済的自立は、経済活動や社会活動に参加せずに、生活を営むことである。

-
- 正解 5 1 × すでに要支援1の認定を受けている状態であり、再度の要介護認定は不要です。
2 × Aさんの心配を解決するための方法としては適切ではありません。
3 × すでに変形性膝関節症と診断されているため、これ以上の精密検査は不要です。
4 × 自宅で暮らし続けるための対応ですので、趣味活動の希望を聞くことは適切ではありません。
5 ○ Aさんにどのような心配があるのか、生活に対する思いを聞くことは大切なことです。
-

-
- 正解 2 1 × 自立には身体的自立と精神的自立があり、他者の支援を受けても精神的自立ができていれば自立とすることができるので、適切ではありません。
2 ○ 選択肢のとおりです。
3 × 社会的自立とは、社会の一員として社会参加している状態のことですので、適切ではありません。
4 × 身体的自立とは、生活に必要な動作を自分で行うことですので、介護者の負担を軽減することではありません。
5 × 経済的自立は、経済活動や社会活動をしながら生活を営むことですので、適切ではありません。
-

人間関係とコミュニケーション

問題3

□□□

U介護老人福祉施設では、利用者の介護計画を担当の介護福祉職が作成している。このため、利用者の個別の介護目標を、介護福祉職のチーム全員で共有することが課題になっている。

この課題を解決するための取り組みとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 管理職がチーム全体に注意喚起して、集団規範を形成する。
 - 2 現場経験の長い介護福祉職の意見を優先して、同調行動を促す。
 - 3 チームメンバーの懇談会を実施して、内集団バイアスを強化する。
 - 4 チームメンバー間の集団圧力をを利用して、多数派の意見に統一する。
 - 5 担当以外のチームメンバーもカンファレンス（conference）に参加して、集団凝集性を高める。
-

問題4

□□□

Bさん（90歳、女性、要介護3）は、介護老人福祉施設に入所している。入浴日に、担当の介護福祉職が居室を訪問し、「Bさん、今日はお風呂の日です。時間は午後3時からです」と伝えた。しかし、Bさんは言っていることがわからなかつたようで、「はい、何ですか」と困った様子で言った。

このときの、介護福祉職の準言語を活用した対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 強い口調で伝えた。
 - 2 抑揚をつけずに伝えた。
 - 3 大きな声でゆっくり伝えた。
 - 4 急かすように伝えた。
 - 5 早口で伝えた。
-

- 正解 5 1 × 集団規範とは、集団による認知や判断、行動について「こうあるべきだ」という一定の基準や価値観を共有し、規範を形成することです。管理職の「こうあるべき」が形成されるのは、適切ではありません。
- 2 × 同調行動とは、意識的にも無意識的にも人に合わせてしまうことです。経験の長い職員の意見に合わせるのは、適切ではありません。
- 3 × 内集団バイアスとは、自分が所属する集団のメンバーをより好意的に評価してしまうことです。チームメンバーだけの懇談会により、チームメンバーだけが強化されてしまうのは適切ではありません。
- 4 × 集団圧力とは、集団の中で少数意見をもつ人に対し、周囲の大多数人と同じような考え方や行動をとるよう強制することです。少数派の意見を聞くことも大切ですから、適切ではありません。
- 5 ○ 集団の凝集性とは、集団が持つ規範の拘束力が強化され、共有する目標に対する成果を大きくすることができます。介護目標を介護職のチーム全体で共有するためには、担当以外のメンバーも参加し、多様な意見や情報を収集することで、決定内容がより多くの人に受け入れられる可能性を高めることができます。

- 正解 3 言葉（言語）によってコミュニケーションをとることを「言語的コミュニケーション」といいます。また、声の強弱・長短・抑揚・話す速度など言葉にともなう語調（準言語）によるものを、「準言語的コミュニケーション」といいます。

- 1 × 相手に恐怖感を与えるので適切ではありません。
- 2 × 相手に拒絶した印象を与えるので適切ではありません。
- 3 ○ 選択肢のとおりです。
- 4 × 相手をより焦らしてしまうので適切ではありません。
- 5 × 相手はよりわからなくなるので適切ではありません。

問題5

□□□

V 介護老人福祉施設では、感染症が流行したために、緊急的な介護体制で事業を継続することになった。さらに労務管理を担当する職員からは、介護福祉職の精神的健康を守ることを目的とした組織的なマネジメントに取り組む必要性について提案があった。

次の記述のうち、このマネジメントに該当するものとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 感染防止対策を強化する。
 - 2 多職種チームでの連携を強化する。
 - 3 利用者のストレスをコントロールする。
 - 4 介護福祉職の燃え尽き症候群（バーンアウト（burnout））を防止する。
 - 5 利用者家族の面会方法を見直す。
-

問題6

□□□

次のうち、介護老人福祉施設における全体の指揮命令系統を把握するために必要なものとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 組織図
 - 2 勤務表
 - 3 経営理念
 - 4 施設の歴史
 - 5 資格保有者数
-

- 正解 4 1 × 感染症対策が目的ではないので、適切ではありません。
2 × チームケアが目的ではないので、適切ではありません。
3 × 対象者が介護職ではなく、利用者ですので適切ではありません。
4 ○ 精神的健康を守る目的として適切です。
5 × 利用者家族との交流が目的ではないので、適切ではありません。

-
-
- 正解 1 1 ○ 組織図とは、組織全体を把握することに役立つものです。全体の指揮命令系統を把握するには、組織図が適切です。
2 × 勤務表はシフト表のことと、全体の指揮命令系統の把握はできないので、適切ではありません。
3 × 経営理念は組織の目標で、指揮命令系統の把握はできないので、適切ではありません。
4 × 施設の歴史も指揮命令系統の把握には適切ではありません。
5 × 資格保有者数も指揮命令系統の把握には適切ではありません。
-